

ウナギ産卵生態調査

4. オオウナギ親魚の形態的特徴と年齢

。脇谷量子郎・望岡典隆（九大院農）

渡邊 俊・青山 潤・塚本勝巳（東大海洋研）

山本敏博（国際農研セ）・張 成年・黒木洋明（水研セ中央水研）

【目的】オオウナギ (*Anguilla marmorata*) はウナギ属魚類の中で最も広い分布域を持つ種であり、遺伝的に分化した複数の集団が存在することが知られている。しかしその成熟年齢や成熟に伴う形態的な変化に関する知見は極めて少ない。2008年および2009年に行われた西マリアナ海嶺におけるウナギ産卵生態調査航海によって、オオウナギの成熟親魚が初めて捕獲された。ここでは形態的特徴および年齢を明らかにする。

【材料と方法】水産庁開洋丸によって2008年 月と2009年月に、水産総合研究センター北光丸によって2009年 月に捕獲されたオオウナギ親魚3個体（雌1、雄2）について体各部の測定を行い、鹿児島県屋久島で採捕された黄ウナギ期のオオウナギとの比較を行った。また、耳石（扁平石）を用いて年齢査定を行った。

【結果】雄2個体の全長は61.3cmと45.1cmで、脊椎骨数はそれぞれ106と104であった。雌は全長122.3cm、脊椎骨数は103であった。雄のEye indexはそれぞれ14.8と16.1であり、雌親魚(7.4)や黄ウナギ期の個体(6.7)に比べ、著しく大きい傾向がみられた。また胸鰭長/全長比(%)は雄でそれぞれ4.7と5.3、雌は4.5であり黄ウナギ期よりもわずかに大きい傾向が見られ、背鰭前部高/全長比(%)は、雄がそれぞれ1.2と1.3、雌が1.6であり、全長約40cm以上の黄ウナギ期個体(2以上)よりも小さい傾向が見られた。体色は雌雄ともに全体的に赤銅色がかった黒褐色で、黄ウナギ期個体の背側にみられる黄緑色の斑紋は認められなかった。年齢は比較的明瞭な耳石輪紋がみられた45.1cmの雄個体では6才と推測され、他の2個体では輪紋が不明瞭であったが、61.3cmの雄個体では6歳以上、雌個体は12歳以上と推測された。